

### 第3回高専防災コンテスト 募集要項

#### 【主催】

独立行政法人国立高等専門学校機構、国立研究開発法人防災科学技術研究所

#### 【後援】

一般社団法人全国高等専門学校連合会、気象災害軽減コンソーシアム

#### 【協力】

防災教育チャレンジプラン

#### 【募集概要】

第3回高専防災コンテストは、日ごろ培っているみなさんの技術や知見を、地域の防災力・減災力向上に役立てる可能性にチャレンジする取り組みです。

1st ステージ書類審査を経て応募の中から選ばれた企画案には、紙上のアイデアを実際に試行する2nd ステージ(アイデア検証)において防災科研の研究者によるメンターサポートや検証活動経費のサポート(予定)を行います。

今回は学生部門/教職員部門の2部門に分けてアイデア募集をいたします。また、最終審査はプレゼンテーション動画及び資料で審査します。

高専防災コンテストのこれまでの提案の中には、コンテスト終了後に共創の取り組みにつながっているものもあります。ぜひみなさんのアイデアを社会に実装するプロセスをリアルに体感してください。

#### 【募集テーマ】

学生部門(代表者が学生)、教職員部門(代表者が教職員)の2部門に分けて募集します。

##### <両部門共通>

- お住まいの地域や訪問したことのある地域など、地域あるいは自治体の防災力・減災力を向上させるためのアイデアを広く募集します。
- “地域の防災力・減災力”は広い観点で捉えていただけて結構です。みなさんの目線で探していただき、多様なアイデアが集まることを期待します。

##### <学生部門のみ>

- 新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに、社会や生活のスタンダードが変化しようとしています。学生部門は「“New Normal”生活様式に対応する防災」を募集テーマとします。

応募部門	学生部門 (代表者:学生)	教職員部門 (代表者:教職員)
応募テーマ		
“New Normal”生活様式に対応する防災	○	○
それ以外のテーマ	×	○

### 【応募資格】

- 国公立高専に修学している学生/教職員/学生・教職員混成(個人、チームでも可)

※但し、学生部門の場合は、教職員が顧問として入ること

### 【応募方法】

- 応募書類（企画提案書、個人情報使用不承諾書）を第 3 回高専防災コンテストの Web サイト ([https://www.bosai.go.jp/labo/ExtremeWeather/contest\\_2020.html](https://www.bosai.go.jp/labo/ExtremeWeather/contest_2020.html)) からダウンロードし、必要事項を記入のうえメールに添付(PDF ファイルでお願いします)してお送りください。

送付先：nied-kosencon(at)bosai.go.jp ※(at)は@に変更してください

<応募時送付書類>

- ・企画提案書(PDF)
- ・個人情報掲載及び肖像権の使用不承諾書(PDF)：不承諾者のみ提出

●応募に関しては、他者の知的財産権の侵害や、共同研究者との機密保持契約違反などが無いように十分注意し、自身の知的財産権の保護にも必要な配慮をしてください。なお、応募作品に対する著作権は応募者が有しますが、以下の資料等については、コンテスト WEB サイト、パンフレット、記録ビデオ等に掲載することがあります。

- (1) 企画提案書および最終審査のプレゼンテーション動画および資料のファイル
- (2) アイデア検証活動時に撮影した写真・動画など

### ●個人情報の取り扱いについて

ご提供いただきました個人情報は高専防災コンテストの広報活動、受付、運営業務に限り使用いたします。なお、ご本人様の同意がある場合または法令に基づく開示請求があった場合、不正アクセス、脅迫等の違法行為があった場合その他特別の理由のある場合を除き、上記目的以外での利用及び第三者への開示・提示はいたしません。

### 【サポートの内容】

1st ステージ：書類審査

- 応募案作成にあたっては、防災科研が助言を行います。

2nd ステージ：アイデア検証

- 書類審査を通過したアイデア(各部門最大 3 件程度)の検証活動経費サポート/上限 10 万円(査定による)(予定)を行います。
- 必要に応じて防災科研の研究者がメンターとしてサポートを行います。

### 【審査】

- 高専機構、防災科研、気象災害軽減コンソーシアムからなる審査員の選考により決定します。

## 【1st ステージ書類審査の観点】

### <学生部門>

- ①”New Normal”への対応
- ②地域の課題や特性をよく捉えているか
- ③着眼や発想のユニークさ

### <教職員部門>

- ①取り組んだ場合の地域実装への期待
- ②地域の課題や特性をよく捉えているか
- ③着眼や発想のユニークさ

## 【コンテストの流れ】

2020 年 9 月 17 日(木)16:30～…Teams ストリーミング配信によるアイデア募集説明会

説明会終了後、メールによる質問を応募書類送付先アドレスにて受け付けます。応募締切日まで、説明会動画の視聴が可能です。

2020 年 10 月 14 日(水)17:00…応募締切

作成にあたっては、必要に応じて防災科研が助言を行います。

2020 年 10 月 30 日頃…1st ステージ：書類審査結果発表

各部門最大 3 件程度採択。

書類審査を通過した企画には、2nd ステージ実施方法の説明をオンラインで行います。

2020 年 11 月～…2nd ステージ：アイデア検証

期間：2020 年 11 月～2021 年 2 月 26 日(金)

必要に応じて防災科研の研究者がメンターとしてサポート。

アイデアの検証活動経費を上限 10 万円(査定による)までサポート（予定）。

<2nd ステージ：アイデア検証では下記課題を実行してください>

・2nd ステージ期間中に、想定されるステークホルダーに検証中のアイデアについてのヒアリングを行ってください(オンラインで構いません)。

・ヒアリング結果の分析を行い、それにより分かったステークホルダーから見た時の自アイデアの「強み」と「課題」について、プレゼンテーション内で触れてください。

2021 年 2 月 26 日(金)17:00…最終審査資料提出締切

下記 2 種類のプレゼンテーション資料をご提出ください。

- ① プレゼンテーション動画（10 分以内、MP4 ファイル）
- ② プレゼンテーション資料（15 枚以内、PDF ファイル）

※データなど、補助資料の追加提出は受け付けません。

※気象災害軽減コンソーシアム会員が投票に際し上記動画・資料の閲覧をするため、発表資料内の著作権確認(図、写真等)をお願いします。

## 【最終審査の観点】

### <学生部門>

- ①アイデア検証を通じた”New Normal”への対応の工夫および実現性
- ②課題検証のプロセスが明確
- ③ステークホルダーヒアリングの分析
- ④ビデオプレゼンテーションの工夫

### <教職員部門>

- ①地域への実装や他地域への展開の可能性
- ②課題検証のプロセスが明確
- ③ステークホルダーヒアリングの分析
- ④ビデオプレゼンテーションの工夫

## 【表彰】

### <学生部門>

- ・最優秀賞：部門内審査委員得点最上位

### <教職員部門>

- ・最優秀賞：部門内審査委員得点最上位

### <部門を問わずに、2nd ステージ全アイデアの中から>

- ・高専機構賞：審査委員の合議で決定
- ・防災科研賞：審査委員の合議で決定
- ・気象災害軽減コンソーシアム賞：コンソーシアム会員の投票数最上位

## 【FAQ（よくあるお問い合わせ）】

### ◆どのような切り口で提案したらよいですか？

『皆さんが日頃感じているような、皆さんの目線での防災の観点を入れてもらうことです。自分達なりのチャレンジの内容があればなお良いと考えています。』

### ◆他のコンテストで発表したアイデアでもかまいませんか？

『かまいません。ただし以前行った発表そのままのアイデアではなく、新たなアイデアを付加させたものや、バージョンアップしたものが対象となります。』

### ◆2021年2月までに何を達成することを目指せばよいでしょうか？

『2021年2月までにアイデアの最終完成形を目指すことは難しいケースが多いと思われるので、「大きな構想の中のこの部分を今回やってみる」というチャレンジで良いと考えています。』

『必ずしもアイデアが有望なものであったという結論が最重要と考えておらず、検証の結果このアイデアのままでうまくいかないことが判明した、ということもまた成果のひとつだと考えています。』

### ◆複数の提案に同じ提案者の名前が入っていてもよいのでしょうか？

『複数の企画提案は大歓迎です。ただし1つの提案ごとに1通ずつご応募ください。』

### ◆1st ステージ：書類審査通過後の 2nd ステージ：アイデア検証でのチャレンジにおいて、防災科研が持っている独自のデータを提供してもらうことは可能ですか？

『はい、内容を伺い可能な限りお応えします。』

- ◆今回のコンテストでの提案内容に関して、同様の提案を他にすることは可能ですか？またその際に守秘義務などがありますか？

『今回のコンテストでは、まずは気軽にご提案いただきたいと考えておりますので、ご懸念のような制約は設けない方針です。』

- ◆アイデアを自治体等に協力を依頼する際、例えば防災科研と動いているということを話すと受け入れられやすくなるかと考えていますが、そういった言い方をしてもよいでしょうか？

『お互いデメリットにならないようにご活用いただければと考えます。』

以上